

簡単な整備・車のお手入れ

簡単な整備

エンジンオイルの補給	11- 2
ウォッシャー液の点検・補給	11- 2
ブレーキ液タンク	11- 3
タイヤメンテナンス	11- 4
エアフィルターの清掃	11- 5

車のお手入れ

内装品のお手入れ	11- 6
外装品のお手入れ	11- 7

エンジンオイルの補給

J01200100628

エンジンオイルはエンジンの性能や寿命、始動性に大きく影響しますので、必ず指定のオイルおよび粘度のものを使用してください。

エンジンオイル量を点検しオイルが不足している場合は、日産純正エンジンオイルまたはオイル缶にILSAC認証マークの入ったエンジンオイルを補給してください。

→「エンジンオイル注入キャップ、エンジンオイルレベルゲージ」P. 1-7
→「オイル類の量と種類」P. 14-3

ILSAC認証マーク



AAA005581

ウォッシャー液の点検・補給

J01200200599

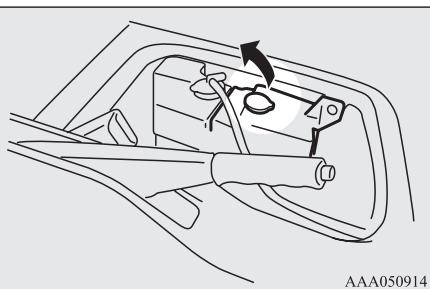
タンク内の液面の位置で液量を点検します。

フロント・リヤ共用

ターボ車以外のタンクは助手席シートの下、ターボ車は運転席シートの下にあります。点検するときは、フロントシートを操作して行います。

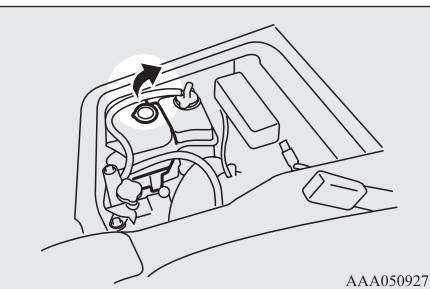
→「エンジン点検口」P. 4-14

〈除く、ターボ車〉



AAA050914

〈ターボ車〉



AAA050927

ウォッシャー液が不足している場合は、日産ウインドウォッシャー液を気温に適した濃度で補給してください。

11 アドバイス

- エンジンオイルは通常走行でも、走行状況に応じて消耗します。オイル量を点検しオイルが不足している場合は、補給してください。
- エンジンオイルの点検、補給方法、交換時期については別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 外気温が低いときに、エンジンオイル注入キャップおよび注入口の内側にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着することがあります。これは、エンジン内部の水蒸気が冷やされて水滴となり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機が進むことにより水分は蒸発し解消します。この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても問題はありません。

<希釈割合の目安>

凍結温度	希釈割合
-7°C程度	原液1に水2
-13°C程度	原液1に水1
-38°C程度	原液のまま

⚠ 注意

- 冬期は、ウォッシャー液を薄めすぎると液がウインドウガラスに凍りついてしまうことがあります。

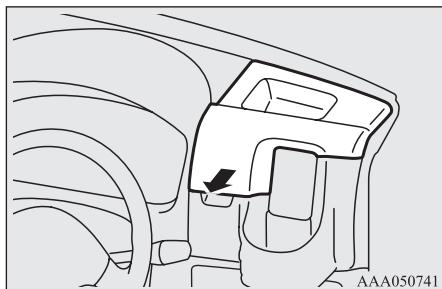
📖 アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを使用すると、ノズルのつまり、塗装のしみなどの原因となることがありますので使用しないでください。

ブレーキ液タンク

J01200300066

運転席側インストルメントパネル上部を手前に引いて外し、ブレーキ液の量を点検してください。



📖 アドバイス

- ブレーキ液の量の点検、補給方法は別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

タイヤメンテナンス

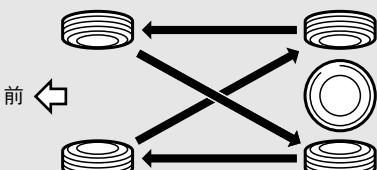
J01202100143

タイヤローテーション

J01202400061

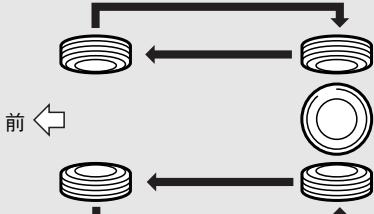
タイヤの摩耗を均一にして寿命を延ばすため、タイヤローテーションを 5,000km 走行ごとに行ってください。

回転方向を示す矢印が付いていない場合



AAA032244

回転方向を示す矢印が付いている場合



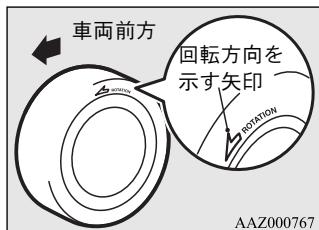
AAA005608

△ 注意

● 応急用スペアタイヤはローテーション作業を行うとき、外したタイヤのかわりに一時的に使用することができますが、ローテーションには加えないでください。

● タイヤに回転方向を示す矢印が付いているときは、4輪で前後ローテーションを行ってください。

タイヤを取り付けるときは車両前進時の回転方向と矢印の向きが同じになるように取り付けてください。矢印の向きが異なるとタイヤの性能が十分に活かされません。



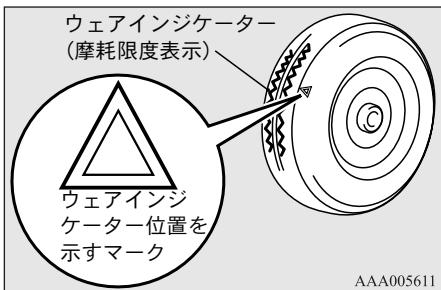
AAZ000767

● 種類の異なったタイヤを混ぜて使用することは、安全走行に悪影響をおよぼしますので避けてください。

タイヤの摩耗

J01202500017

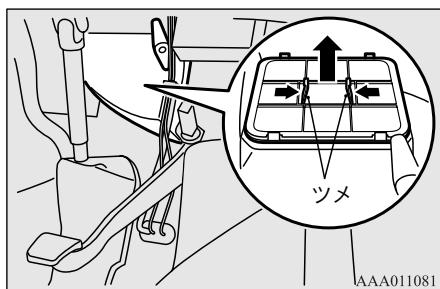
ウェアインジケーター（溝の深さ 1.6mm 以下）が現れたら、スリップしやすくなり危険ですのでタイヤを交換してください。



エアフィルターの清掃

J01201800055

エアフィルターは運転席足元にあります。



- ツメを内側に押さえながらフィルターを取り外します。
- 掃除機などで大きなほこりを取り除いたあと、水洗いします。
- 乾いた柔らかい布で水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。
- フィルターの裏表に注意して、ツメを内側に押さえながらフィルターを取り付けます。

タイヤ空気圧の点検・調整

J01202600018

タイヤの空気圧は定期的に点検し、必ず規定の空気圧に調整してください。
→「タイヤの空気圧」P. 14-9

△警告

- タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、タイヤが偏摩耗したり、車の安定性や操縦性を確保できなくなるおそれがあります。また、バースト（破裂）するなど重大な事故につながるおそれがあります。

△注意

- エアフィルターを取り外したり取り付けたりするときに、けがをしないように注意してください。

△アドバイス

- 点検方法は別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。
- 規定の空気圧は運転席ドアを開けたボデー側のラベルにも表示しています。

△アドバイス

- エアフィルターを装着せずにヒーター・エアコンを使用しないでください。故障の原因となることがあります。

内装品のお手入れ

J01200601024

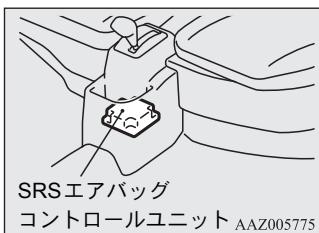
1. 電気掃除機などでほこりを取り除きます。
2. ガーゼなどの柔らかい布に、中性洗剤の3%水溶液を含ませて、軽くふき取ります。
3. 真水にひたした柔らかい布を固くしぼって、洗剤をきれいにふき取ります。
4. 水分をよくふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。

アドバイス

- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみ、割れの原因になります。
また、各種クリーナー類にはこれらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤は、こぼれないよう容器を確実に固定してください。
また、インストルメントパネルの上やランプ類、メーターの近くには置かないでください。
含まれる成分によって樹脂部品や布材の変色、ひび割れをおこすおそれがあります。

△注意

- 車内を直接水洗いすることはできるだけしないでください。やむを得ず洗車をする場合は、SRSエアバッグコントロールユニットおよびその周辺に水がかからないよう行ってください。
SRSエアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。



- シリコンやワックスを含むクリーナーや保護剤を使用しないでください。
インストルメントパネルなどに使用すると使用箇所がウインドウガラスに映り込み、視界の妨げになるおそれがあります。
また、各種スイッチなどに付着すると電装品の故障につながるおそれがあります。
- シートの下など、見えにくい場所や狭い場所のお手入れをするときは、手袋などを使用して、手にけがをしないよう注意してください。

外装品のお手入れ

J01200701230

お車を美しく保つために、走行後は塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としてください。

つぎのような汚れは、そのままにしておきますと、腐食、変色、しみになるおそれがありますので、できるだけ早く洗車してください。

- 海水や道路凍結防止剤など
- 工場のばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質（酸、アルカリ、コールタールなど）など
- 鳥のふん、虫の死がい、樹液、花粉など

⚠ 注意

- 下まわりやホイールを洗うときは、厚手のゴム手袋などを使用して、手にけがをしないよう注意してください。
- 外装のお手入れをするときは、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。

洗車のしかた

1. 水をかけながら、車体の下まわりを洗います。
2. 車体上部から水をかけながら、スポンジなどで汚れを洗い落とします。
3. 水洗いで落ちにくい汚れには、中性洗剤を使用してください。
洗車後は、中性洗剤を水で完全に洗い落とします。
4. 鳥のふんや虫の死がいなどの汚れは、水で洗い落とし、必要に応じてワックスで汚れを落とします。
5. 柔らかい布またはセーム皮で、塗装面にはん点が残らないよう水分をふき取ります。

⚠ 注意

- 洗車後は、低速で走行しながら数回ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを乾かしてください。
ぬれたままにしておくとブレーキの効きが悪くなったり、凍結やさびによつてブレーキが固着し、走行できなくなることがあります。

アドバイス

- 日産純正ワックスの使用をおすすめします。
- エンジンルーム内には水をかけないでください。車体の下まわりを洗車するときも、エンジンルーム内に水が入らないようにしてください。エンジン始動不良などの原因になります。
- 自動洗車機を使用すると塗装面にブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗浄機（コイン洗車機など）は機種によって高温、高圧のものがあります。車体樹脂部品の熱変形、破損、接着式マーク類のはがれ、室内への水侵入などのおそれがありますので、つぎのことをお守りください。
 - ・洗車ノズルと車体との距離を十分離す。（約40cm以上）
 - ・ドアガラスまわりを洗うときは、洗車ノズルをガラス面に垂直に向け、洗車ノズルとガラスとの距離を十分離す。（約60cm以上）
- 自動洗車機を使用するときは、部品が破損したり、車両を傷つけるおそれがありますので、アンテナおよびドアミラーを格納してください。リヤアンダーミラー付き車は、使用する前に必ず係員にご相談ください。係員のいないコイン洗車機などは、操作要領に従って洗車してください。

ワックスのかけ方

月に1~2回または、水をはじかなくなったらときに行ないます。ワックスかけは、洗車後の塗装面が体温以下のときに直射日光を避けて行ってください。塗装面が熱いときにワックスをかけると、しみの原因になります。

アドバイス

- 日産純正ワックスの使用をおすすめします。
- コンパウンド（研磨剤）入りのワックスは使用しないでください。

コンパウンド入りのワックスを使用すると、汚れ落ちはよくなりますが、塗装面を削り取るため塗装面の光沢が失われる原因になります。
また、使用した布に色が付着し色落ちするおそれがあります。
特に濃彩色は変色部分がめだちやすくなります。
- 黒色のつや消し塗装部にワックスをかけると、色むらなどが起こるおそれがありますので、ワックスをかけないでください。

ワックスが付着したときは、温水を用い柔らかい布できれいにふき取ってください。
- 洗車やワックスかけを行うときは、車体の一点に強い力がかからないよう注意してください。

力のかけがいや場所によっては、万の場合、車体がへこむおそれがあります。



ウインドウガラスのお手入れ

ワイパーのふきが悪くなったときは、ウインドウガラス洗浄剤（ガラスクリーナーなど）で清掃してください。

アドバイス

- 日産純正ウインドウガラスクリーナーの使用をおすすめします。
- ガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷つけないよう電熱線に沿って柔らかい布でふいてください。

ワイパーのお手入れ

ワイパーゴムに異物が付着していたり、摩耗しているとふきが悪くなりますので、つぎのように処置してください。

- 異物が付着しているときは、水を含ませた柔らかい布でワイパーゴムを清掃してください。
- ワイパーゴムが摩耗しているときは、早めにワイパーゴムを交換してください。

アドバイス

- ワイパーゴムの交換については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

番号灯のお手入れ

番号灯の内側が汚れたり、水がたまつた場合は、まず車体から番号灯を外し、つぎにバルブを外してからレンズを水洗いしてください。

→「番号灯」P. 13-41

アドバイス

- レンズの表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどでこすったりしないでください。破損したり劣化を早める原因となります。
- 番号灯を外すときは、車体を傷つけないよう十分注意してください。

樹脂部品のお手入れ

スポンジまたはセーム皮で清掃します。黒色や灰色系統で表面がざらざらしている部分（バンパーやモールディングなど）およびランプ類にワックスが付着すると白くなることがあります。

ワックスが付着したときは、温水を用い柔らかい布またはセーム皮などできれいにふき取ってください。

アドバイス

- たわしなどの硬いものは、表面を傷つけるおそれがありますので使用しないでください。
- コンパウンド（研磨剤）入りワックスは、樹脂の表面を傷つけるおそれがありますので使用しないでください。
- ガソリン、軽油、ブレーキ液、エンジンオイル、グリース、塗装用シンナー、硫酸（バッテリー液）を付着させると、変色、しみ、ひび割れの原因になりますので、絶対に避けてください。
万一、付着したときは、すみやかに中性洗剤の水溶液を用い柔らかい布またはセーム皮などでふき取ったあと、多量の水で洗い流してください。
- [未塗装の材料色（ホワイト）バンパーのお手入れについて]
汚れが落ちにくい場合は、日産純正ワックスを使用してください。
未塗装の材料色（ホワイト）バンパーに、日産純正ワックスを使用することは問題ありません。

塗装の補修

飛び石や引っかき傷などは、腐食の原因になります。

見つけたら早めにタッチアップペイントで補修してください。

アドバイス

- 日産純正タッチアップペイントの使用をおすすめします。